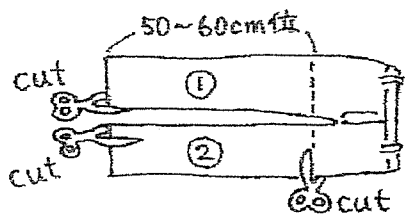
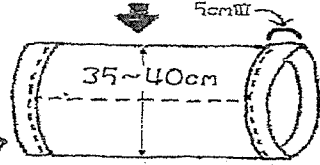


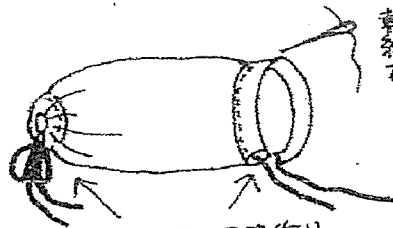
中古ジーンズで作るサバイバルサック (おでかけ袋)



①②をつなげ筒状に縫う。

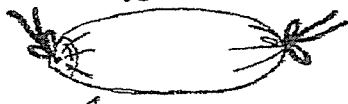


ひもを通しやすい布 (薄手のもめん等おバリの良い布) を縫いつける。



ひも通し口を作りおバリの良いひもを通す。

完成



☆パンだから爪を立てても丈夫! 居心地最高!

輪の中心を縫うとひもが破けない。



災害時の移動も楽々。



病院嫌いの私も安心。診察の時も怖くないよ。

獣医さんも助かる。



「キャリーバッグ」は使用しない時がでばるので... という方にもおススメ。

サバイバルサック/お出かけ袋の使い方

日常的に猫さんに慣らしておく、いざという時にも使いやすいと思われます。ハウスの中、寝場所などに置いておくのはいかがでしょう。

使うときは一方のひもをしっかり結んでおきます。

AさんはBさんが猫さんを袋に入れようとする時に助手になって下さい。

Bさんが猫さんの

前足のつけ根部分に手のひらを添えて軽く持ち上げるのに合わせて

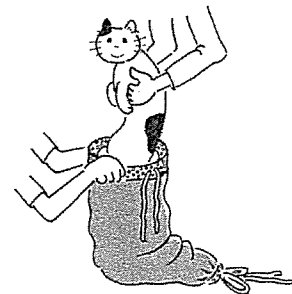
Aさんは猫さんの尾の方から

(すくうようにして) 袋の中に入れ、全身が袋に入ったら床に置き

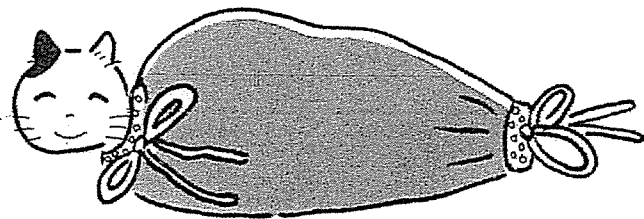
Aさんにひもをしめてもらいます。猫さんは何事かと思うかもしれませんが、足が床に(袋の中であっても)着けば安心しますので、一息入れてひもを少しゆるめ、猫さんの頭だけ出して

(人間の指一本入る位の余裕を残して) きっちりとひもを結びます。

Bさん



Aさん

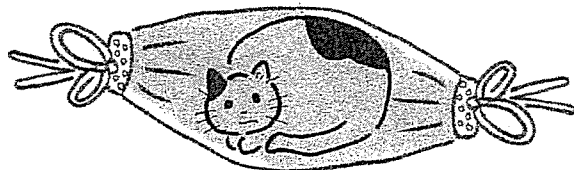


キャリーケース、バスケット、ショルダーバッグ等に入れて、余計な刺激を与えないようにして病院へ連れて行きましょう。

首から上を見ていただく時はこのままのスタイルでOK。

他を見ていただく時は、尻尾の方のひもだけをほどいて袋をめくり上げて見ていただきましょう。全身をじかに押さえつけられていないので、恐さが違うのではないのでしょうか。

歯石のケア、耳の掃除など飼い主さんにさせてくれない猫さんでも、この形ならプライドも傷つかずに乗り切れるのではないのでしょうか。



スッポリ入るのが好きな猫さんも